



研究短報100号発行にあたって

研究短報100号記念特集の発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

日頃は農業総合試験場の取り組みにご支援をいただき、誠にありがとうございます。

研究短報は、当試験場における試験研究成果を広く県民の皆様に紹介し、技術開発の現状や農業への理解を深めていただくため、1983年（昭和58年）に第1号を発行いたしました。以来、新品種や新技術を紹介

してまいりました。昨年にはCOP10の開催にあわせ、生物多様性特集も発行いたしました。本号では、100号の歩みを改めて取りまとめることとしました。

今、日本の「食」と「農」の新たな結びつき、消費者と生産者の相互理解が求められています。この研究短報もその一助として、引き続き、ご愛読・ご活用いただければ幸いです。

（愛知県農業総合試験場長 伊藤清一）

イネの新品種「あいちのかおり」誕生

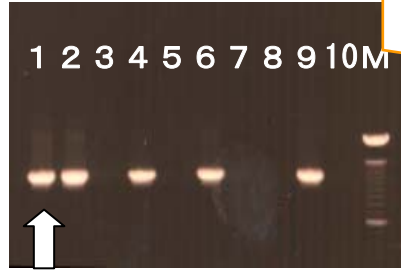
No.19
1988年1月号



「あいちのかおり」は1987年に作付けがはじまり、その後2000年に病虫害抵抗性を付与した「あいちのかおりSBL」を育成しました。愛知県では最も作付面積が多い品種です。

イネの病虫害抵抗性検定もDNA検定の時代

No.54
1996年10月号

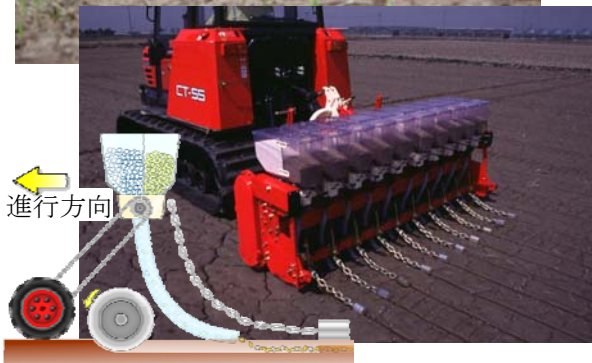


抵抗性個体はバンドが見える

イネの病虫害抵抗性品種の育成をより早く確実にを行うために、DNAマーカーを利用した病虫害抵抗性の検定法を確立しました。この検定法により、病気に強い系統を早い世代で選抜でき、効率的な育種が行えます。

超省力技術
「不耕起乾田直播」による稲作り

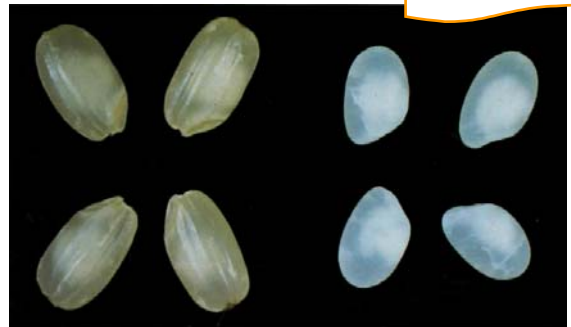
No.45
1994年7月号



不耕起乾田直播栽培は、超省力化技術として1993年から試験に取り組み、2002年に不耕起V溝直播栽培と命名しました。現在では17府県の約2500haに普及しています。

フルーティーな味を醸し出す
酒米「夢山水」登場

No.56
1997年4月号



玄米

60%精米

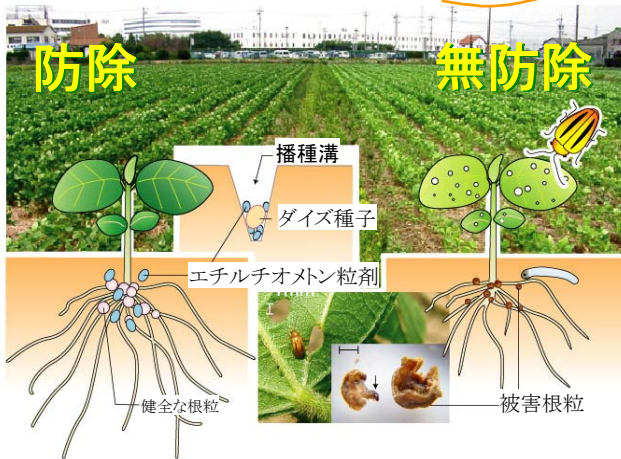
フルーティーで香りの高い酒ができる酒造好適米「夢山水」を育成しました。この品種は酒造メーカーなどの協力を得ながら選抜したため、醸造特性にも優れています。この品種は、現在、中山間地域振興の目玉となっています。

水稻の低コスト栽培
— 全量基肥施肥法 —

基肥のみの施用で追肥や穂肥を施用しない全量基肥施肥法は、従来の分施肥の80%程度の施肥量で、同等以上の収量、品質が得られます。このため、省力・低コスト栽培が可能になることから、現在では、水田作付面積の70%以上で利用されています。(No. 25 1989年7月号)

フタスジヒメハムシ防除でダイズ収量向上

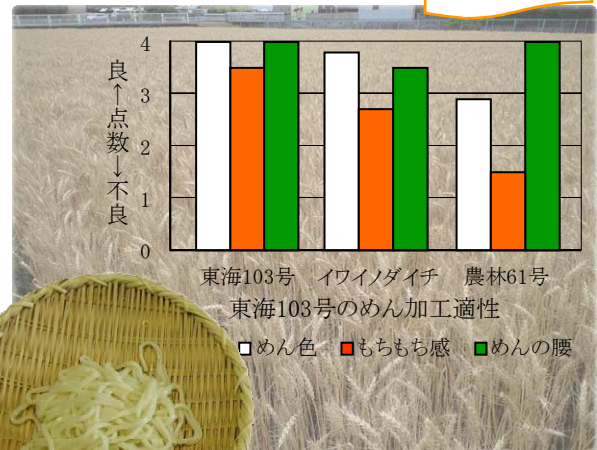
No.73
2002年6月号



フタスジヒメハムシの幼虫は、根粒を食害しダイズの収量に大きく影響していることが分かりました。この対策として、殺虫剤の播種同時施用技術を開発しました。この技術により、ダイズの収量が20%増加しました。

うどん加工適性の高い小麦系統「東海103号」

No.87
2007年3月号



「東海103号」は、麺の色が良く、もちもちつるつるした食感が楽しめる品種です。「きぬあかり」と命名され、2011年から愛知県内で本格栽培がはじまります。

ダイズの高効率摘心作業機の開発

No.82
2005年7月号



西三河沖積地帯のダイズ栽培は、栄養成長が旺盛で徒長しやすく、倒伏が大きな低収要因となっています。そこで、過剰な生育を抑制する「摘心」を簡易に行える作業機を開発しました。

ゲノム育種法による画期的な水稻新品種「中部125号」の開発

No.96
2010年6月号

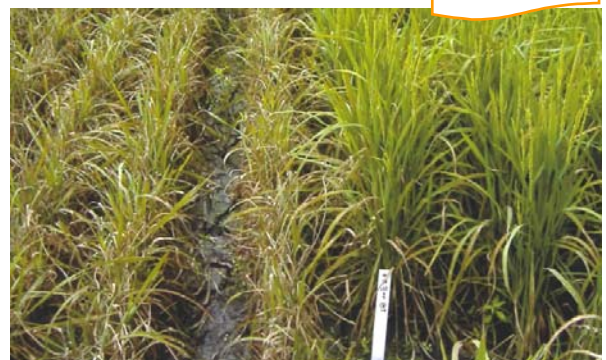


写真 左：コシヒカリ、右：中部125号

世界で初めて、いもち病抵抗性遺伝子のすぐ近くにある食味を損ねる遺伝子を取り除いた水稻の新品種「中部125号」を開発しました。いもち病にとっても強く、大変おいしい画期的な品種です。